

全国の若者らが技の日本一を競い合う  
第54回技能五輪全国大会・第36回全国障害者技能競技大会

10月21日から24日まで、山形県総合運動公園(天童市)など山形県内14会場で、青年技能者とその技能の日本一を競う第54回技能五輪全国大会が開催された。宮城県からは「旋盤」や「レストランサービス」など11種目に16人が出場した。また、10月28日から30日にかけて、山形市と天童市の2会場で、障害のある方々が日頃職場などで培った技能を競う第36回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)が開催され、宮城県からは7種目に7人が参加した。

10月22日、寒河江市市内多目的運動場(チェリーナさがえ)では、「配管」の競技が行われ、県代表の高橋隼人さん(本山振興株式会社・仙台市)が競技課題に挑んだ。



「配管」に出場した、高橋隼人さん。金属製の管を熱しながら曲げていく



「建築大工」に出場した、高橋康広さん(右)と佐藤さん(左)。佐藤さんは2年連続、高橋さんは4年連続の出場を果たし、ともに上位入賞を狙って課題に挑んだ

同種目では、図面を基に管材に切断、曲げ、接合などの加工を施し、配管設備を組み立てる。高橋さんは、ガスバーナーを当てながら、金属製の管を少しずつ曲げた。競技後、配管に適切な処理が施されているか、水漏れがみられないかなどについて審査された。また、寒河江市市民体育館では「建築大工」の競技が行われ、高橋康広さん(城北住建・名取市)と佐藤大輔さん(株式会社遊佐建築、大崎市)が出場した。

出場者は、配布された木材に「かながけ」や「墨付け」などを行い、2日間で課題図に示された木造小屋組みの一部を製作した。審査の結果、「建築大工」競技に出場した高橋さんが、3年連続で敢闘賞を受賞。高橋さんは、「金賞を狙っていただけに悔しい。今回が最後の挑戦だったので、応援していただいた職場のみなさんには、仕事の面で恩返しをしていきたいです」と感想を述べた。

第36回アビリンピック

10月29日、山形国際交流プラザ(山形ビッグウイング)では、「パソコンデータ入力」の競技が行われ、菅原愛寿花さん(宮城障害者職業能力開発校・仙台市)が出場した。

同種目は、データ入力の手速さと正確さを競うもので、出場者は、アンケートの入力や伝票の修正など、三つの課題に挑んだ。それぞれ30分の競技を終えた菅原さんは、「競技をするうちに、だんだん緊張してしまいました。それでも悔いが残らないようにがんばることができました」と話した。



パソコンデータ入力に出場した、菅原さん(右)と、「喫茶サービス」に出場した奥田さん(左)。2人とも「本番では訓練校での練習の成果を出し切りました」と話した

また、同会場では、「喫茶サービス」の競技も行われ、奥田和真さん(宮城障害者職業能力開発校)が出場した。同種目は、模擬喫茶店で、正確かつスムーズに接客サービスを提供する技術を競うもので、出場者が一人で接客業務を行う「規定競技」と、数人の出場者がグループで業務を行う「自由競技」から構成される。自由競技の1回目を終えた奥田さんは、「自分の役割に気づかず動くことができなかったところを、2回目の競技で修正していきたいです」と話した。

高校生が自動車整備士専門学校を体感  
花壇自動車大学校オープンキャンパス2016

9月4日、花壇自動車大学校(仙台市)のオープンキャンパスが同校で行われ、東北6県から高校生と保護者ら約1300人が来場した。

来場者は、学生から自動車整備の実習やエンジンの構造などについて説明を受けた。車体の塗装やスパーカー・燃料電池車の試乗などを体験したりした。

高校の工業系課程で自動車整備について学んでいる生徒は、「高校で学ばないようなことを見たり、聞いたりすることができました。学校の

様子を楽しく知ることができ、整備士を目指す気持ちが高まりました」と話した。

案内役を務めた一級自動車科3年の内海宏輝さんは、「来ていただいたみなさんが、さらに車を好きになってもらえるように、心を込めて案内しました。自動車整備士は、車だけではなく運転する人の命も預かる仕事だということも高校生に伝えました」と話した。

同校では、毎年7月と9月にオープンキャンパスを実施



見学に訪れた高校生に説明する学生たち

するほか、毎月学校見学会を開催している。見学会の申し込み・問い合わせは、同校のホームページ



試乗体験会場には、世界のスーパーカーの前に長い行列ができた

ジャや電話(0222-2222-3838)で随時受け付けている。

小中学生が科学の不思議や技術の魅力を知る  
サイエンスプラス(ものづくり体験教室)

小中学生を対象としたものづくり体験教室「サイエンスプラス」が10月1日、東北職業能力開発大学校(栗原市)で行われ、親子連れなど241人が来場した。



本箱製作の様子。釘が曲がらないように、慎重に金づちで打ち付けた

来場者は、地元企業や高校生などが企画した19のプログラムを体験。工作や実験を通して科学や技術について楽しく学んだ。



パスタを使った橋を作り、軽くて強い橋の設計方法について学んだ

本箱製作体験のブースでは、有限会社伊藤ハウジング(栗原市)の職人が子どもたちに「きり」や金づちの扱い方を指導した。参加した児童は、「失敗したところがあつたけど、大工さんに直してもらいながら、完成できてよかったです。



東北ポリテックビジョン in 栗原で行われた「空に舞う熱気球を作ろう」の様子

本箱より大きな家を作る大工さんは、すごいなあと思いました」と話した。本イベントは、宮城県が主催し今年で3回目。栗原地域の企業や学校などと連携し、地域産業の担い手育成と、地域の持続的発展へつなげることを目的としている。

また、同会場では親子ものづくり体験教室「東北ポリテックビジョン in 栗原」(東北職業能力開発大学校主催)が同時開催された。

高校生が日頃の学習成果をアピール  
みやぎの専門高校生展  
みやぎ総文2017プレ大会

10月15日と16日の2日にわたり、「みやぎの専門高校生展(みやぎまるごとフェスティバル内)」が勾当台公園(仙台市)で行われた。本イベントは、高校生が開発した商品の販売を通して、専門高校の取組を紹介するもの。

両日ともに4校ずつが出展し、地元の特産品を使った商品などを販売した。このうち15日に開催した迫桜高等学校(栗原市)のブースには、生徒が企画した「迫桜かぼちゃパウンドケーキ」などの商品が並んだ。

販売を担当した生徒は、「夏からみんなで商品のコンセプトやネーミング、価格設定について話し合いました。商品を手に取り購入してくれた人がいてホッとしています」と話した。また、10月29日には、登米祝祭劇場(登米市)で「第



気仙沼向洋高校のブースでは、サンマの缶詰などが販売された

41回全国高等学校総合文化祭みやぎ総文2017プレ大会工業部門(第25回工業専門部生徒活動成果発表会兼催)が開催され、県内の工業系部活動などに所属する生徒が、研究成果を発表した。

ステージ発表部門と展示発表部門に合わせた13団体が参加し、審査の結果、ステージ発表部門では白石工業高等学校(白石市)の工業化学部が、展示発表部門では石巻工業高等学校(石巻市)の建築部が最優秀賞に輝いた。

全国高等学校総合文化祭は、全国から文化系部活動の高校生が美術作品や音楽などを披露する文化の祭典。来年、宮城県で開催されるのに先立ち、今年はいくかの部門のプレ大会が県内各地で開催されている。



「自作の光触媒を用いた環境浄化装置の開発」を発表する、石巻工業高校天文物理部の生徒

これからのイベント開催情報

【第15回東北ポリテックビジョン】

『東北から作り出そう』ものづくりの未来を、發揮しよう。東北の若力を、をテーマに東北職業能力開発大学校、付属青森校、付属秋田校および県立短期大学校などが参加して、「ものづくり教育訓練」の成果、受託・共同研究などの発表、展示、講演、競技会などのイベントを実施します。

【開催予定日】  
日時/2月17日(金) 9時30分~17時  
2月18日(土) 9時~14時30分  
場所/東北職業能力開発大学校  
※詳細は決まり次第ホームページで告知します  
問/0228-2222-2082  
http://www3.jed.or.jp/myagi/college/

【第5回東北職業能力開発大学校オープンキャンパス】

高校2年生(または1年生)を対象に、施設見学会や体験授業を実施するほか、ものづくり分野の職業について理解を深め、将来のものづくり分野への進路選択を考える際に役立つ「公開講座」を開催します。

【開催予定日】  
日時/3月25日(土) 10時~15時  
場所/東北職業能力開発大学校 階段教室  
※瀬峰駅、くりこま高原駅から無料送迎バスが利用できます  
申込/ホームページにある申込用紙に必要事項を記入し、FAXでお申し込みください。電話でのお申し込みも可能です  
問/TEL 0228-2222-6614(学務課)  
FAX 0228-2222-2432  
http://www3.jed.or.jp/myagi/college/

【新規高卒者就職面接会】

2017年3月に高校卒業予定の新卒者を対象とした就職面接会を実施します。

【みやぎ新規大卒等就職面接会】

2017年3月に大学卒業予定の新卒者および3年以内の既卒者を対象とした就職面接会を実施します。事前の申し込みは不要。